

3号機気体廃棄物処理系の流量増加の調査結果について

3号機は、平成17年3月25日より調整運転を実施しておりますが、気体廃棄物処理系の流量の漸増傾向が続いたことから、3月26日、発電機の出力量を約66万キロワットにて中断いたしました。これにより気体廃棄物処理系の流量の漸増傾向は見られなくなりましたが、上記出力における調査では、不具合箇所の特定には至らなかったことから、発電機出力を低下させ、詳細な調査を行うことといたしました。

発電機出力を約16万キロワットまで低下させ、復水器等への空気の流入の有無について調べたところ、異常は確認されませんでした。

その後、運転操作の状況について調査を行った結果、3月25日の発電開始以降、復水器内の真空度調整*1を積極的に実施していなかったことが分かりました。そのため、復水器内に通常より多い非凝縮性のガス*2が滞留し、復水器内から排出される非凝縮性のガスが流れ込む気体廃棄物処理系の流量が増加したものと推定されることから、復水器内の真空度調整を行いながら3月30日に発電機出力を約37万キロワットまで上昇させ当該系統流量の確認を行ったところ、通常運転時の変動範囲で安定していることを確認いたしました。

さらに、発電機出力を定格出力まで上昇させ当該系統流量の確認を行うこととしました。（平成17年3月27日、3月31日お知らせ済み）

引き続き、復水器内の真空度調整を継続して発電機出力を定格出力まで上昇させ（4月3日定格出力到達）気体廃棄物処理系の流量を確認した結果、通常運転時の変動範囲で安定していることから、復水器内の真空度調整を積極的に実施していなかったために復水器内に通常より多く滞留した非凝縮性のガスが気体廃棄物処理系に流れ込み、当該系統流量が増加したものと判断しております。

本事象に鑑み、今後、発電機出力を上昇させる際には、復水器内の真空度に加え気体廃棄物処理系の流量を適切に把握しながら、非凝縮性のガスの影響により気体廃棄物処理系の流量が増加する前に復水器内の真空度調整を実施するよう運転員に周知し、手順書に反映いたします。

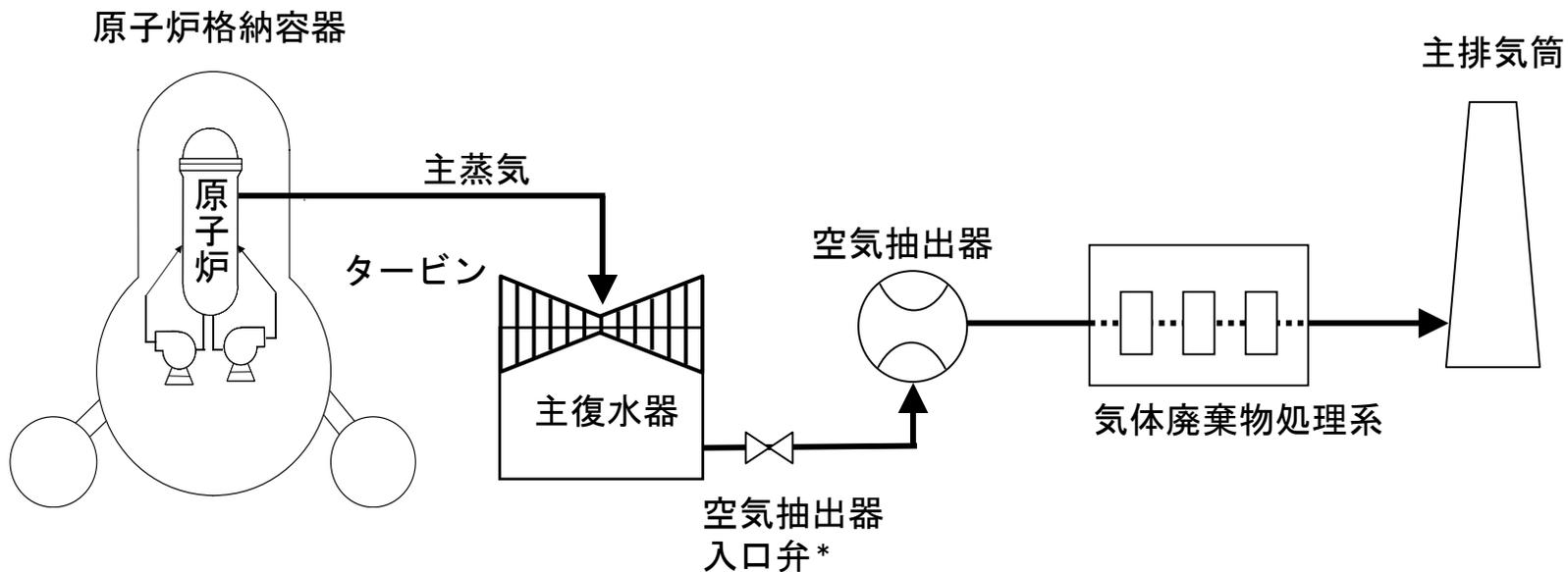
以 上

* 1 復水器内の真空度調整

復水器内の真空度は、復水器から排出する非凝縮性のガス量を空気抽出器入口弁の開度を調整することにより、適切に維持している。

* 2 非凝縮性のガス

原子炉から発生した蒸気に含まれる酸素、水素等の気体や微量な放射性希ガス。復水器内の非凝縮性のガスは、復水器内の真空度維持のため、気体廃棄物処理系に抽出し処理している。



* : 空気抽出器入口弁の開度調整により
復水器内の真空度の調整を実施

3号機気体廃棄物処理系概要図